

鉄鋼・鋼材輸送に関する実態調査 調査票

調査のご依頼

委員各位

鉄鋼検討委員会
委員長 小池英樹

「内航海運から見た素材型産業の物流効率化に関する調査」につき委員各社による活発なご議論有り難うございます。さて第2回委員会(在京メンバー)において、鉄鋼・鋼材輸送に関する実態調査を以下のような調査票にて実施することとなりました。

- ・鉄鋼・鋼材輸送のコスト構造と効率化のための課題を明確化するために実施します。
- ・委員会メンバーの主要な鉄鋼船オペレーター企業におうかがいします。
- ・調査結果はまとめた結果のみ公表し、個票や各社の情報は公開されません。
- ・貴社では該当のない項目については空欄でも結構です(出来れば理由を付記下さい)。
- ・6月の中間報告に向け調査票は6月9日(月)までに必着でご返送よろしく申し上げます。FAXにてのご返送でも可です。

返送先・問い合わせ 財団法人国民経済研究協会
〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-40 入交ビル 9F
電話 03-5261-1052 fax03-5261-1059 メール honkawa@kkri.org
担当：本川、渡邊、棚木

会社名	回答者名
	連絡先電話

【最初に、貴社の企業概要等についてお伺いします。】

F1. 貴社の業態は、次のいずれを含みますか。(いくつでも○)

- | | |
|---------------------|------------|
| 1. 内航海運事業(船舶貸渡業を除く) | 5. 貨物運送取扱業 |
| 2. 港湾運送事業 | 6. 船舶貸渡業 |
| 3. 倉庫業 | 7. 外航事業 |
| 4. 自動車運送事業 | 8. その他 |

F2. 貴社の船腹保有量は

	(隻数)	(DWTトン数)	うち RORO 船	
1. 自社所有船	隻	万トン	隻	万トン
2. 定期用船	隻	万トン	隻	万トン
3. 委託船	隻	万トン	隻	万トン

F3. 貴社の鉄鋼・鋼材取扱(陸上輸送を含む国内輸送に係る分。以下同様)の割合は貴社の全体売上のどのぐらいの割合ですか。(1つだけ○)

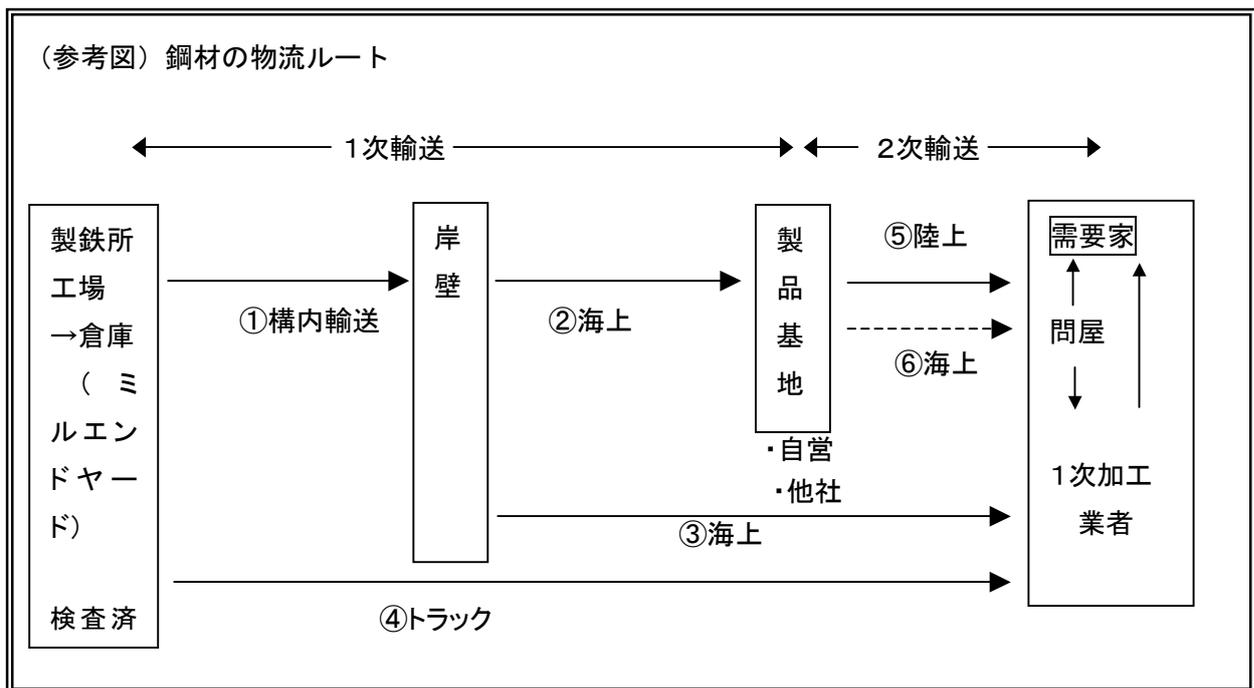
1. 10割	4. 5～6割
2. 9割以上	5. 5割未満
3. 7割～8割	

F4. 貴社の鉄鋼・鋼材取扱量のうち荷主企業メイン1社の割合はどの程度ですか。(1つだけ○)

1. 10割	4. 5～6割
2. 9割以上	5. 5割未満
3. 7割～8割	

F5. 貴社の鉄鋼・鋼材取扱量は荷主企業メイン1社の鉄鋼・鋼材出荷量の何割ぐらいですか。(1つだけ○)

1. 10割	4. 5～6割
2. 9割以上	5. 5割未満
3. 7割～8割	



【以下の質問は鉄鋼・鋼材取扱に関してお答え下さい】

Q1. 貴社の関係する製品基地(製鉄所と需要家の間の流通のための中継基地)の状況は、次のいずれですか。

1. 自社経営の製品基地をもっている	→	箇所
1-1 この製品基地で港運事業も同時に行っている箇所	→	箇所
1-2 自社経営だが港運事業は別会社の箇所	→	箇所
2. 他社経営の製品基地・指定倉庫を使用する	→	箇所
3. 製鉄所を流通基地として利用する	→	箇所
4. 製品基地・指定倉庫とは関わらない		

Q2. 貴社の鉄鋼・鋼材の取扱量は何万トンぐらいですか(第1次輸送量(参考図の②+③+④)の平成14年度実績をお答え下さい)。

	(うち製鉄所間半製品輸送)	(うちその他鋼材輸送)
万トン	万トン	万トン

Q3. 製鉄所間半製品輸送を除く鋼材輸送の以下の各ルート(丸数字は参考図に対応)の輸送量はどの程度ですか(「万トン」でお答え下されば「割」は記入不要です)。

①構内輸送	万トン	割
②製品基地向け海上輸送	万トン	割
③直接需要家向け海上輸送	万トン	割
④製鉄所からの陸上輸送	万トン	割
⑤製品基地からの陸上輸送	万トン	割
⑥製品基地からの海上輸送	万トン	割

Q4. 鋼材物流(所間輸送を除く)の運賃・料金内訳はどのようになっていますか(製鉄メーカーら見た販売物流コスト内訳)。平成14年度の実績でお答え下さい。

物流形態 内訳		計	道路 輸送	内航 基地着	内航 客先着	港湾運送			倉庫 *4
						はしけ	荷役	その他	
製鉄所	構内*1	%	%				%	%	%
	所発海上	%		%	%	%			
	所発陸上	%	%						
基地*2	基地費用*3	%	%				%	%	%
	基地発海上	%			%	%			
	基地発陸上	%	%						
合計		100.0%	%	%	%	%	%	%	%

(注)塗りつぶし部分はあり得ないものです。いったん実額を積み上げてから構成比(%)に直して記入下さい。鋼材一貫物流の一部だけを分担している場合は、担当分だけでお答え下さい。貨物運送取扱業収入は実運送機関に、鉄道は道路に含めてお答え下さい。

*1 製品完成前の構内作業(構内下請)は除きます。岸壁までの横持ちが道路輸送に当たります。

*2 一般港湾、製鉄所敷地を含めます。

*3 自営基地のコストと他営基地の場合の料金の合計を記入下さい。基地内の輸送を含みます。

*4 倉庫業上の倉庫費用であり、港湾運送事業に係る倉庫費用は「港湾運送」の「その他」に記入下さい。

(回答例)

物流形態 コスト内訳		計	道路 輸送	内航 基地着	内航 客先着	港湾運送			倉庫
						はしけ	荷役	その他	
製鉄所	構内*1	15.0%	5.0%				8.0%	2.0%	%
	所発海上	32.2%		20.0%	10.0%	2.2%			
	所発陸上	15.8%	15.8%						
基地	基地費用*2	19.8%	0.0%				10.0%	5.0%	4.8%
	基地発海上	0.4%			0.4%	0.0%			
	基地発陸上	16.8%	16.8%						
合計		100.0%	37.6%	20.0%	10.4%	2.2%	18.0%	7.0%	4.8%

Q4-1. 需要家の港湾に向かう所発海上及び基地発海上の場合の需要家側負担の揚げ荷役コストは上記の外数となると考えられますが、上記の合計を 100 とする割合ではどの位になりますか。推測できる限りでお答え下さい。

%

Q5. 貴社の関わる鋼材輸送において製鉄所から海上輸送するか陸上輸送するかの分岐点は何kmぐらいとなっていますか。だいたいのキロ数でお答え下さい。

現在	kmぐらい
----	-------

Q5-1. 過積み規制の強化が予定されていますがこのキロ数は今後どう変化しそうですか。(いずれか1つ)

1. 不変
2. 短くなる
3. 長くなる

Q5-2. このキロ数はこの 10 年でどう変化していますか。(いずれか1つ)

1. 不変
2. 短くなってきている
3. 長くなってきている

Q5-2-1. 前問で「長くなっている」とお答えの方、あるいは「長くなったケースもある」場合にお聞きします。長くなった理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 陸上輸送のコストが相対的低下	3. 製品基地の配置の変化
2. 道路の発達	4. 遠距離ユーザーの減少
3. 小口多頻度輸送へのニーズの高まり	5. その他()

Q5-2-2. 前問で「短くなっている」とお答えの方、あるいは「短くなったケースもある」場合にお聞きします。短くなった理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 海上輸送のコストが相対的低下	3. 製品基地の配置の変化
2. 道路の渋滞	4. 遠距離ユーザーの増加
3. 需要家のコスト低減意識の高まり	5. その他()

Q6. モデルルートの運賃・料金構造はどうなっていますか。

《基地経由(p.3 参考図の①→②→⑤)ルート、薄板、需要家が基地から 60 kmと仮定》

		構内	海上	基地	陸上	トータル
阪神 ↓ 京浜	一般貨物船	%	%	%	%	100%
	RORO 船	%	%	%	%	100%
	その他特殊船	%	%	%	%	100%
山陽 ↓ 京浜	一般貨物船	%	%	%	%	100%
	RORO 船	%	%	%	%	100%
	その他特殊船	%	%	%	%	100%
↓	一般貨物船	%	%	%	%	100%
	RORO 船	%	%	%	%	100%
	その他特殊船	%	%	%	%	100%

(注) 定義はQ4に準じます。該当のあるケースについてお答え下さい。

Q7. 鋼材輸送の効率化のために重要となっている課題は何ですか。

	を お つ け 下 さい	最 重 要 な も の に ◎	重 要 な も の に ○	目 に ○ を お つ け 下 さい	荷 主 か ら の 要 請 項 目 に ○ を お つ け 下 さい	荷 主 の 協 力 が 必 要 な も の に ○ を お つ け 下 さい
1. 船舶の大型化	1	1	1	1	1	1
2. 省力化船	2	2	2	2	2	2
3. 配船の効率化による積載率の向上	3	3	3	3	3	3
4. 社船、定期用船、委託船の組み合わせの弾力化	4	4	4	4	4	4
5. 帰り荷の確保	5	5	5	5	5	5
6. 航海速度の合理化による燃費の節約	6	6	6	6	6	6
7. RORO 船による荷役の効率化	7	7	7	7	7	7
8. 特殊船による荷役の効率化	8	8	8	8	8	8
9. ユニットロード貨物の増加	9	9	9	9	9	9
10. 標準化へ向けた船舶の改善	10	10	10	10	10	10
11. 船舶の大型化・標準化に対応した港湾施設の整備	11	11	11	11	11	11
12. 省力化のための荷役設備	12	12	12	12	12	12
13. 全天候バースによる荷役の不安定性の低減	13	13	13	13	13	13
14. 荷役時間・曜日の柔軟化	14	14	14	14	14	14
15. 荷役コストの低減	15	15	15	15	15	15
16. 港湾事務の効率化	16	16	16	16	16	16
17. その他()	17	17	17	17	17	17
18. その他()	18	18	18	18	18	18

Q8. 物流効率化の課題について具体的にお考えを記入下さい。

①船舶大型化、標準化

--

②RORO 船、特殊船化

--

③港湾、荷役

1. 荷役の効率化

2. 規制緩和

--

④配船効率化(積載率、空航率、沖待ち)

--

⑤その他

--

ご協力有り難うございました。